

## 博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	竹村 淳子	(****年**月**日)
本籍	*****	
学位(専攻分野)	博士(保健看護学)	
学位授与番号	甲第121号	
学位授与日付	平成26年3月14日	
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当	
論文題目	重症心身障害児の二次障害の治療選択過程における親のレジリエンス発揮への看護	
審査委員	教授 中新 美保子	教授 津島 ひろ江
	教授 松本 啓子	

### 博士論文内容の要旨

本論文は、成人移行期の重症心身障害児(重症児)に発症しやすい側彎、呼吸障害、嘔下障害といった二次障害の治療選択過程で発揮する親のレジリエンスを修正版グラウンデッドセオリーアプローチ(M-GTA)の分析手法を用いて明らかにし、さらに、レジリエンスに影響した看護師の関わりの内容を分析することによって、親のレジリエンスを高めるための看護を検討したものである。

近畿圏の14人の重症児の母親を対象とし、母親は《二次障害の予備知識の蓄え》を土台として、わが子に生じた《二次障害出現の実感》をしながらも《治療の価値と機能の喪失の間で逡巡》しつつ、元の体調に戻したいと《体調回復への努力》をし、一方で冷静に治療を受ける《タイムリミットの見極め》をしながら、治療は《わが子が生きるための治療と判断》、今後も《わが子の体調変化に向き合う覚悟》をもつに至る、とするレジリエンスの様相を明らかにした。さらに、これらのレジリエンスの様相は、わが子の体調が悪くなっていく時期の母親に心構えを伝えることや、治療に迷う母親の気持ちを受け止めつつ治療のメリットや治療後の生活イメージを持てるような具体的な関わりを看護師が実践したことが影響していたことを明らかにした。これらの結果は、重症児の二次障害の治療選択過程における親のレジリエンス発揮を支えていく看護師にとって、具体的な示唆を与える知見であることが示された。

### 博士論文審査結果の要旨

重症心身障害児の親のレジリエンス発揮への看護をテーマにした本研究は、他には少ない。重症心身障害児は成長し、成人移行期を迎える際には様々な重篤な二次障害を引き起こす。多くの親はその都度、命と向き合う体験をし、我が子とともに生きる方法として治療を選択している。この状況に向き合う親の様相を科学的な分析から明らかにした点、さらに、その様相に最も身近に存在する看護師の関わりの内容を明らかにしたことは、今後、このような状況を迎える多くの親とその看護を担う看護師にとって、非常に有益な知見を示したと評価できる。聞き取り調査の分析においては質的帰納的研究手法の1つであるM-GTAを選択しているが、更なる信頼性を高めるために、小児看護学領域の研究者のみならず臨床看護師や親に対しても抽出したカ

テゴリーをフィードバックしながら進めるなど、一般化するための努力を行っていた。この点においては信頼性や妥当性の担保を高めたといえる。しかし、これらの結果は、あくまで母親の語りからであり、今後、一般化するために申請者が行うべき課題の明確化に関して質問があり、適切に回答がなされた。